



北陸は、その長い歴史や特徴的な気候などから独自の誇る**伝統工芸品**がたくさん存在する地域である。しかし、時代が進むにつれてその伝統はかけ離れた存在となった。この住宅では、加賀の歴史から発展してきた**加賀友禅**の職人たちが集まる。部屋が仕切られながらも視線が繋がる空間の中で、常に「**見習い**」ながら**生活と制作**を日常の中で共有し合い、**職人同士**が一つの「**家族**」として繋がりを深める。この住宅では、**加賀友禅**を継承していく職人たちが繋がりを広めると共に、北陸の**誇りと伝統**を未来へと繋いでいってほしい。

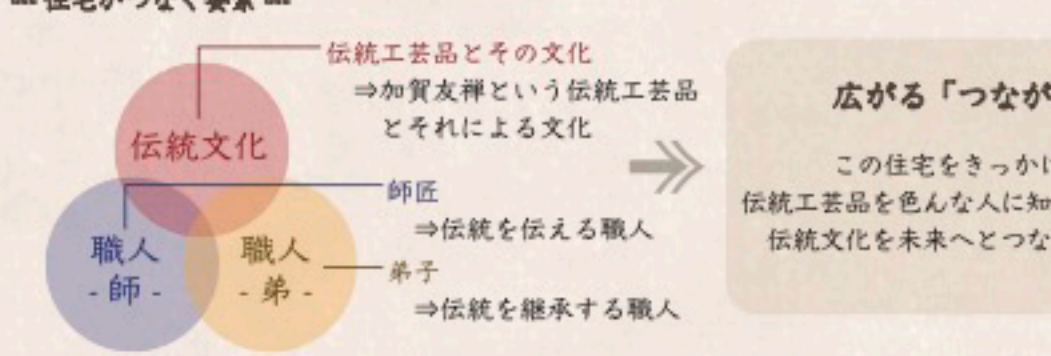
【一】加賀友禅における職人減少の背景と現状

現代における伝統工芸品には、職人の減少や事業の衰退という現状を抱えている。加賀友禅は、加賀五彩とぼかしという技法を特徴として金沢を中心に独自に発展してきた歴史がある。しかし、バブル期の需要増大をきっかけに、生産の効率化が求められ、本来の伝統が薄れるようになった。中でも水洗いの工程である「友禅流し」は、かつて川で行っていたが、友禅流し工場が作られ人工的な作業工程が主流になった。次第に友禅流しという伝統文化はなくなってしまった。この背景を経て、現代では伝統的な工程を行う職人は減少し、バブル崩壊後の需要低下により後継者が減少していると共に、伝統が衰退してしまっているのが現状である。

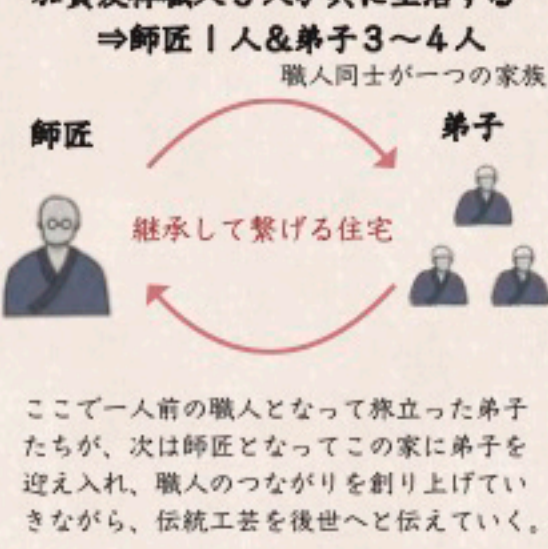


【二】「職人たちの家」の計画 / この住宅がつなぐ要素

伝統工芸品を保存していく職人の後継者不足やコミュニティが減少しているからこそ、技術を継承するだけでなく職人同士が深くつながりを持つ必要がある。血縁のつながる家族ではないものの、一つの伝統を未来へ伝えていく「家族」として、職人と職人をつなぐことをメインとした住宅を考える。



【三】この住宅での家族構成



【参】敷地選定



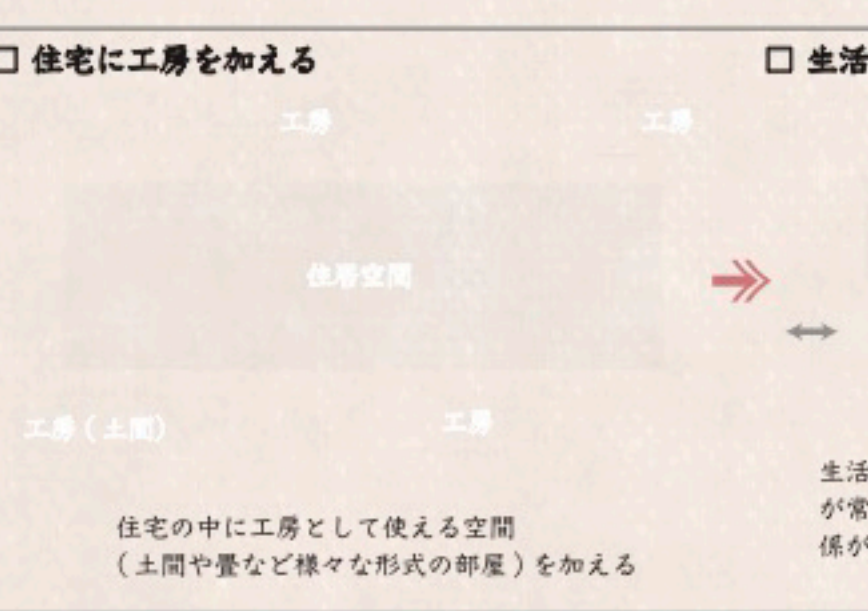
【加賀友禅職人が集う住宅の計画】

かつての浅野川は友禅流しが行われ、加賀友禅の伝統において関わり深い場所である。しかし、バブル期に人工の川が作られるとその伝統は次第になくなり、現在では川での友禅流しは見られなくなった。友禅流しという金沢の伝統文化を復活させることも踏まえて、この住宅ではその工程を浅野川で行うことを想定して、川の近くに敷地を選定している。職人が集まる住宅だからこそ、その伝統工芸にゆかりある土地を選び、伝統を継承できるような場所を考える。

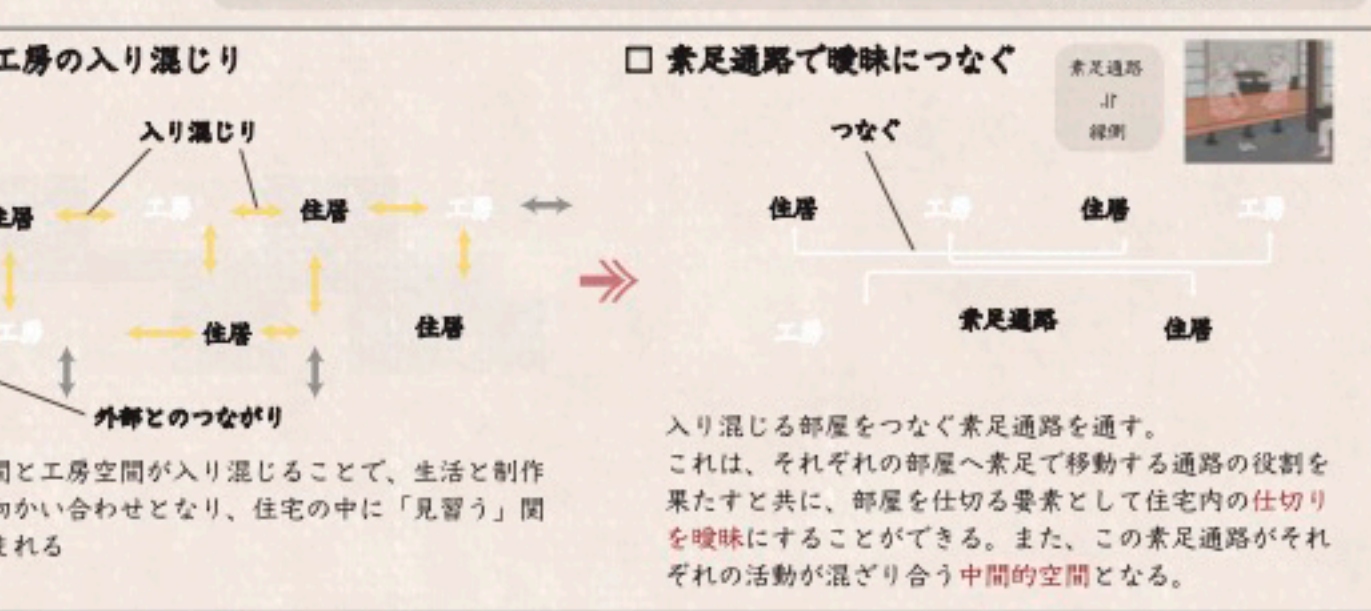
【肆】設計プラン

「見習う」空間から作る職人同士のつながり

1. 部屋の入り混じりによる住宅と工場のつながり



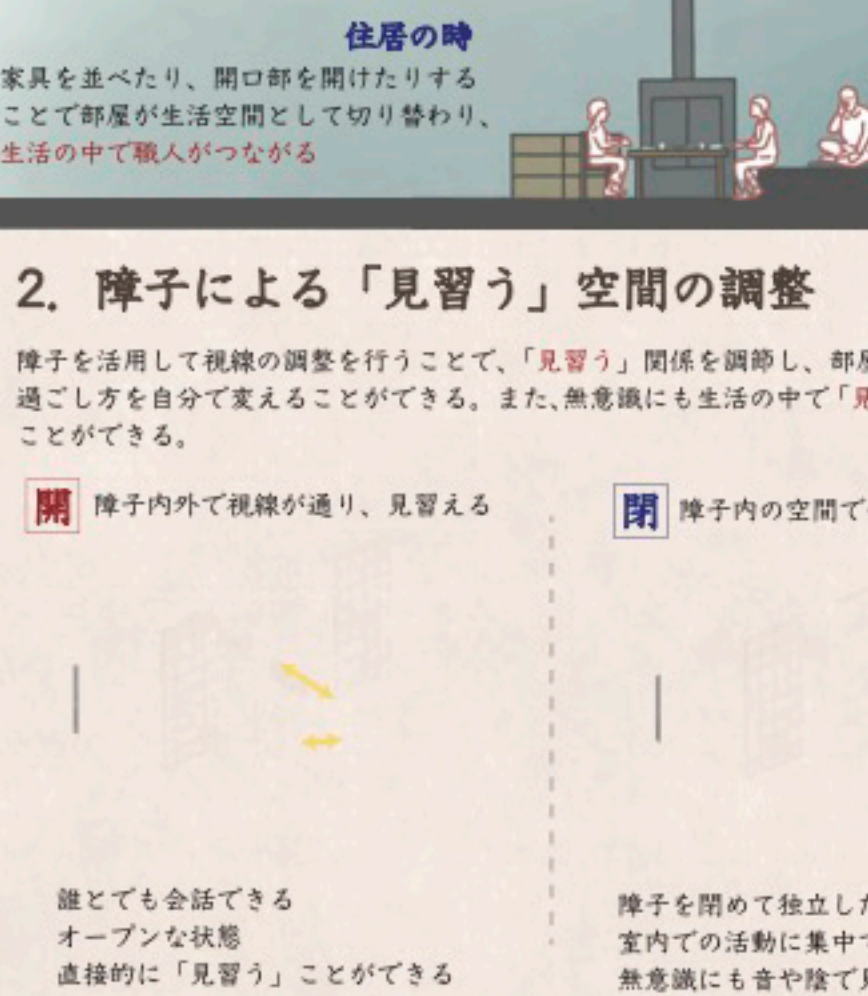
加賀友禅の「見習う」歴史



配置図



2. 障子による「見習う」空間の調整



3. 「ぼかし」の空間で混ざり合う人と活動

